

號十三百十 (日曜木)

【夕刊】四月八日 鐵道側の無
炭礦價^{ジヤウ} 納炭一割
八十萬噸

いかと悲觀する
うなれば常磐
る鐵道納炭關
が七十萬圓に
うと

損
から主務
涉を開始
が如何な
きつけ得
全然不明
に頑強な
してある
云はれる
してある
著會議室に總
半署管下の石
なる拾八日午
時より殉職聲
一割二端木源七
るのでひ終つて
て一割二端木源
の會社幹部
右にめし
見された
白米五拾
倉庫セメ
検査所と
社から檢
菜米商は
のみで右
の受検査の
同賣留

宇佐美商店 告發する
流經剤の廣告が賣藥法違反にて
町三丁目に賣藥業を営む
美友二郎(三)は昨年八月
町内舊城跡の聚樂園塗に寄附掲載した左記廣
告文の如きを主張して訴訟を提起したのである
原告の主張するところによれば、被告は「
櫻花紺ぐ石城郡の賑ひを拜禮者を」の文を
櫻花紺ぐ石城郡の賑ひを
拜禮者を

本店が常に新聞に掲載するものとされ、九條に於て禁止され、薬法違反として半器業で発上申されたが右は同店で、認められ去る三月廿四日、山の流經劑に添えたが如き下し藥、五五は安心確實、輕症の重症不明。

園は相當の賑はれると云はれてゐる消防組では右検員慰勞の觀櫻會が開かれた。即ち藤野滿枝方に後三時頃金輪に車とある傳導鳩一隻たるだので同人から出た。

